



国民春闘共闘

第25号

2016年4月26日

国民春闘共闘委員会

〒113-8462 東京都文京区湯島2-4-4 全労連会館
☎ 03-5842-5621 FAX 03-5842-5622

2016春闘・第5回賃上げ集計

上積み獲得・賃金底上げ広がる！

国民春闘共闘委員会（全労連、純中立労組懇、地方共闘などで構成）は4月21日、2016年春闘における第5回目の賃金改定集計を行い21単産・部会から報告が寄せられました。

<回答状況>

	2016年	2015年（同期）
登録組合数	827	838
回答組合数	404（48.9%）	428（51.1%）
うち金額・率回答	312	311
うち「定昇のみ」など言葉による回答	92	117
うち上積み獲得	89（22.0%）	87（20.3%）
うち妥結組合数	146（36.1%）	156（36.5%）

<回答内容>

集計方法&対象		2016年	2015年（同期）	（前年同期比）
単純平均	額（円）	5,302	5,789	-487
	率（%）	1.95	2.08	-0.13
加重平均	額（円）	5,729	6,172	-443
	率（%）	2.03	2.07	-0.04
	組合員数（人）	73,340	83,286	

<前年実績との比較が可能な組合における回答状況（金額での比較）>

前年比較可能な組合数	うち前年実績以上	（前年超）	（同 額）
280	125（44.6%）	94	31

<前年実績との比較が可能な組合における金額・率の比較>

		組合数	金額・率	前年実績	（前年比）
単純平均	額（円）	280	5,529	5,863	-334
	率（%）	185	1.97	2.10	-0.13

※額または率のみの報告があるため、双方は連動しません。

※「定昇のみ」など言葉による回答は計算から除いています。

<集計結果の概要>

回答引出し・妥結状況

第5回集計には、あらたに検数労連、映演労連から報告が寄せられ21単産・部会での集計となりました。

登録827組合のうち、これまでに回答を引き出したのは404組合・48.9%となっています。前年同期（2015年4月24日現在：428組合・51.1%）と比べ2.2%下回っているものの、全国港湾団交決着翌日の4月7日に第1次回答を引き出した検数労連や4月13日を回答指定日に設定した映演労連などで回答を引き出したほか、全農協労連（7組合増）、日本医労連（6組合増）、生協労連（5組合増）、建交労・運輸、全印総連、（各4組合増）など「統一行動ゾーン」なども節目に、積極的な回答引出しが図られ、前回調査（4月6日現在：355組合・42.9%）から49組合・6%増えています。

回答を引き出した組合のうち、妥結もしくは妥結方向となっているのは146組合・36.1%（「定昇のみ」など言葉による回答も含む）となっています。前回調査（87組合・24.5%）から59組合・11.6%増え、前年同期（156組合・36.5%）を僅かに下回っています。回答引出し組合の6割以上は交渉を継続しており、要求実現にむけて執念を持ってたたかいが進められていることが伺えます。

全体の回答内容

有額回答を引き出した組合での単純平均（一組合あたりの平均）は5,302円・1.95%で、加重平均（組合員一人あたりの平均）は5,729円・2.03%となっています。前年同期と比べ単純平均487円減・-0.13%、加重平均443円減・-0.04%と微減の状況で推移しています。

そうした中、前年同期を上回る89組合が数字にわたる上積みを引き出すなど、各組織の奮闘で前回調査時点の水準を維持しています（前回調査比：単純平均29円増・+0.04%、加重平均3円増・-0.01%）。

上積みの最高次数はJMITUの2組合での5次回答で、うち1組合は10,220円・4.52%の回答を引き出しながらも、要求にこだわり粘り強くたたかいを継続しています。4次回答がJMITU（6組合）、日本医労連、地方マスコミ（各1組合）の計8組合、3次回答が12組合、2次回答が67組合となっています。

出版労連で14,340円を引き出したのを筆頭に、映演労連の組合が前年実績を1,353円上回る13,416円を獲得するなど、1万円以上となった組合は前回調査から4組合増え15組合となりました。9,000円台は16組合、8,000円台が21組合となっています。

率で見ると前回調査時に4.3%で最高率を獲得したJMITUの組合が5次回答を引き出し4.52%となったのをはじめ、率揭示のあった202組合のうち過半を越す103組合が2%以上の賃金引き上げを勝ち取っています。

単産・部会別に加重平均額をみると、出版労連が9,000円台となっており、建設関連労連、民放労連、映演労連が8,000円台、建交労・建設が7,000円台、JMITU、化学一般労連、建交労・鉄道、日本医労連、地方登録組合が6,000円台と続いています。

合同繊維（前年同期比450円増）、建交労・運輸（同420円増）、生協労連（同294円増）、建交労・鉄道（同172円増）、建交労・製造（同90円増）では単純平均額で前年同期を上回る水準となっています。

前年実績比較可能組合での回答状況

同一組合での前年実績比較が可能な 280 組合での単純平均額は 5,529 円で、前年実績 5,863 円を 334 円下回っています。しかし、要求をあきらめない各組織の奮闘で、前年同様に集計を重ねるごとにマイナス幅は縮小しており、春闘後半戦で追い上げが図られています(第 1 回集計: 551 円減、第 2 回集計: 486 円減、第 3 回集計: 414 円減、第 4 回集計: 392 円減)。

金額比較可能な 280 組合のうち、44.6%にあたる 125 組合は現時点で前年実績以上を確保しており、更なる追い上げが期待されます。

率では 185 組合の単純平均で 1.97%と前年実績比 -0.13 ㊦となつていますが、前回調査から 0.04 ㊦上昇しています。

単産・部会別にみると、前回調査同様に合同繊維、生協労連、出版労連で前年実績比微増となっていることが確認できます。

規模別では、「1000 人以上」が前年実績比 140 円増・+0.05 ㊦、「300~999 人」96 円減・+0.02 ㊦、「100~299 人」454 円減・-0.1 ㊦、「30~99 人」299 円減・-0.19 ㊦、「29 人以下」489 円減・-0.24 ㊦と比較的大きな規模の組合が全体を牽引していることが確認できます。

しかしながら、「29 人以下」(前回調査時前年実績比 681 円減・-0.31 ㊦)、「30~99 人」(同 338 円減・-0.21 ㊦)では前回調査時と比べ前年実績に近づいてきており、中小規模組合での奮闘も伺える状況となっています。

非正規雇用で働く仲間の賃上げ状況

パートやアルバイト、再雇用など非正規雇用で働く仲間の賃上げは、別表の 9 単産・176 組合から 277 件の成果獲得の報告が寄せられました。

獲得件数は前回調査(4月6日現在: 8 単産 153 組合 249 件)から 23 組合 28 件増え、前年同期(2015 年 4 月 24 日現在: 11 単産 149 組合 260 件)を 27 組合 17 件上回っています。日本医労連、出版労連、建交労、化学一般労連では前年実績を上回る件数となっています。生協労連や日本医労連などからは上積み獲得の報告も寄せられています。

パートやアルバイトなど(継続雇用・再雇用で働く仲間を除く)時給制で働く仲間の賃金引上げは 186 件、日給制は 11 件、月給制は 54 件となっています。

時給制で引上げ額の回答報告があった 128 件での単純平均額は 19.3 円となりました。日本医労連(150 円) JMITU(140 円)など月額換算(155 時間換算)で 2 万円を超す回答も引き出されています。

日給制では、出版労連の組合で 1,000 円の賃上げを勝ち取るなど、建交労、民放労連、出版労連、日本医労連の 11 件で平均 336 円の引上げとなっています。

月給制での引上げ額は 6,453 円(41 件平均)と正規雇用での回答水準を上回っています。生協労連では、一般正規職員よりも低水準の賃金に置かれていた、いわゆる「地域限定職員」などの賃金改善を実現させ、栃木で 54,800 円の賃金引上げを獲得するなどの報告が寄せられています。化学一般労連や日本医労連でも 1 万円以上の大幅な賃上げを実現しています。

また、民放労連の日本海テレビ労組では、2014 年春闘で引上げさせた派遣契約料金を、今春闘でも引上げさせています。

再雇用・継続雇用で働く仲間の賃金改善は、JMITU、化学一般労連、生協労連、全印総連、日本医労連の6単産で計26件の成果獲得となっています。

時間給での引上げ額の平均は23.8円（13件平均）で、月給制では4,260円（11件平均）となっています。化学一般労連で月額13,000円、出版労連で月額10,000円、JMITUで月額5,000円などの引上げを実現しています。

賃金底上げの取り組み成果が確実に広がっています。この流れをさらに広げ、未解決組合への支援も強化しながら、春闘後半戦のたたかいを進めていきましょう

企業内最低賃金改訂状況

企業内最低賃金協約の締結・改定状況は別表の9単産70組合から報告が寄せられています。

時間額の獲得件数は52件で、日額は23件、月額が39件となっています。また、日本医労連、建交労では職種別の最低賃金協定を勝ち取っています。

時間額で改定後の金額揭示のあった42組合での平均額は944円で、日額では13組合平均7,672円、月額は19組合平均164,228円となっています。

出版版労連では、企業内最低賃金要求額を時給1,300円以上から1,500円以上に引き上げたたたかいを進め、9組合で前進回答を引き出し、月額220,930円・日額10,520円・時間額1,503円の協定を締結した組合の報告も寄せられています。また、JMITU、化学一般労連、全印総連、民放労連、出版労連、日本医労連では時間額1,000円以上の回答が引き出されています。

賃金底上げの取り組み成果が確実に広がっています。この流れをさらに強め、春闘後半戦のたたかいを進めていきましょう。

STOP暴走政治、戦争法廃止！ 壊すな憲法 暮らしもる共同で、賃上げと雇用の安定、地域活性化

<参考> 他団体の賃上げ集計結果

●日本経団連の第1回回答集計（4月18日現在）は以下のとおりです。

集計対象	集計企業		加重平均				単純平均			
	社数	人数	金額	率	昨年	率	金額	率	昨年	率
加盟企業	62	—	7,174	2.19	8,157	2.51	6,298	2.04	6,706	2.18

※調査対象は、原則として東証一部上場、従業員数500人以上の企業

●連合の臨時回答集計（平均賃金方式・4月14日公表）は以下のとおりです。

集計対象	集計組合		加重平均			
	組合数	人数(万)	金額	率	昨年	率
全組合	2,672	218.2	6,077	2.06	6,670	2.24
中小共闘	1,707	17.3	4,715	1.91	4,928	2.01

※中小共闘は、規模300人未満

●連合・第3回回答集計（非正規雇用労働者の賃金引上げ・4月1日公表）は以下のとおりです。

集計対象	時間額					
	単純平均			加重平均		
	組合数	賃上額	平均時給	人数(万)	賃上額	平均時給
全組合	128	20.57	999.58	44.3	19.30	934.48

集計対象	月額					
	単純平均			加重平均		
	組合数	賃上額	率(参考)	人数(万)	賃上額	率(参考)
全組合	57	4,022	1.99	3.1	4,454	2.22